

日本エコレザー対談④9



左から松本氏、稲次氏

松本 正剛氏

(オリエンタルシューズ(株)社長)

稲次 俊敬氏

(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)

量産路線から脱皮し、こだわりの高額ブランドでサステナブルな靴づくりを進める

生活必需品としての靴から、品質重視にシフト

稲次 本日は、小泉工業団地(旧奈良県靴工場団地、大和郡山市)にあるオリエンタルシューズ(株)社長である松本正剛様にお話をお聞きします。まず、オリエンタルシューズさんは創業1947年で、74年という長い歴史をお持ちですが、松本正剛様は何代目ですか。

松本 三代目です。父松本常雄が創業し、長男の松本勉現会長が二代目、弟の私が後を継いで今日に至っています。

初代の松本常雄は太平洋戦争でビルマ(現ミャンマー)戦線からの生還者で、戦地では靴がないため

に命を落とした兵士も沢山いたのだそうです。戦後、靴をつくり社会に貢献することが使命だと考え、靴づくりを始めました。

稲次 いま、新しいことをいろいろ進めていらっしゃるようですね？

松本 そうですね。私は、社長就任前から「生活必需品としての靴は、もう我々の商材ではない」と考えていて、新しいことを進めています。

ある時期は量販一辺倒でした。そこからの脱皮です。靴の品質・テイストのグレードアップをし、2万円以上の価格帯を中心に、販売もセレクトショップやインターネット販売に広がっています。

稲次 自社ブランドの高額品も多いようですね？

松本 はい。メインブランドの「オリエンタル」は、グッドイヤー製法のドレスシューズで、価格は4万〜10万円くらいの価格帯です。

高価格帯という意味では、シューズデザイナー坪内浩さんがデザインする「ヒロシ・ツボウチ」があり、このブランドのスニーカーはヒットしました。

その流れで、いま勢いがいいのが「WH」。これは坪内さんのインシャルHとファッショントレクターの干場雅義さんのインシャルHを冠したコラボレーションブランドです。価格は4〜6万円です。また、スニーカーでは「MID F

【会社概要】

社名 オリエンタルシューズ株式会社
事業 紳士・婦人靴の製造販売
創立 1947年8月
設立 1957年8月
資本金 5,000万円
代表取締役会長 松本勉
代表取締役社長 松本正剛
従業員 55名
所在地 本社・工場
〒639-1042奈良県大和郡山市小泉町2475-2
TEL0473-55-1111
<https://www.oriental-shoes.co.jp>

OOT(ミッドフット)があります。関西大学人間健康学部教授の河端隆志先生との産学共同開発です。ソールの踏まず下を凸にして、足裏全体での着地を促すことで膝や腰の負担を軽減する設計で、コンセプトは『本来の歩き方へ』です。

自社生産が1万円台後半で、海外生産品は8000円くらいで販売しています。生産量の面で自社ブランドの主力は「YAMATO ism(ヤマトイズム)」で、2万円前後の価格です。20年秋にはその兄弟ブランド「riche(リッシュ)」を立ち上げたところです。

サステナブルな作りと暮らし方の提案で、アンバサダーを獲得したいと思っていて、自然に密着してクリエイティブに暮らす人たちが取材したブランドブックが、2月初旬には出来ず。

量販の革靴ではライセンスの「ダンロップ」「アルファキュービック」などがあり、靴専門店チェーンやGMSに販売しています。これは中国生産です。

稲次 「ヤマトイズム」はユニークなネーミングですね。

奈良名産の鹿革を使ってブランドディング

松本 本社の所在地である『奈良・大和小泉』と『日本製であるからできること』に由来しています。『日本の素材でつくる』『丁寧なものをつくる』『環境に寄り添う』をブランドコンセプトとしています。メンズとレディースの幅広い靴種を展開しています。

稲次 この靴は非常に軽いですね。これは鹿革ですね？

松本 奈良の菟田^{うたの}野製の革です。

稲次 藤岡勇吉本店(奈良・宇陀市)さんのところの革ですか？

松本 はい、勇吉さんです。長年、使わせていただいています。「ヤマトイズム」はここ2年ぐらい、「ふるさと納税」の返礼品として大きな反響を頂いています。

ご存知のように靴は大和郡山市の特産品の一つで、ふるさと納税返礼品の7割を占めています。その中で「ヤマトイズム」がダントツなのです(笑)。

稲次 双方にとってよいPRになりますね。鹿革の靴というの珍しいですね。鹿は奈良では害獣ではないのですね。確か、天然記念物だったかと聞いていますが…。

松本 はい、鹿は神の使いですからね。奈良市内に生息する鹿は特に天然記念物として保護されています。私どもの鹿革は、この鹿を革にしているわけではありませんよ(笑)。

稲次 そうですよ。鹿の皮は主にニュージーランド、オーストラリア、南米や中国などから輸入された食肉の副産物ですからね。鹿革は柔らかく感触も良く丈夫なのが魅力ですね。

松本 丈夫ですね。繊維がすごく緻密で。

稲次 この革サンダルもいいですね。これも自社生産ですか？

松本 もちろん自社です。中敷も鹿革なのですよ。「ヤマトイズム」ブランドの1アイテムですが、テキストは20年秋に販売が始まった



松本氏



稲次氏

「リッシュ」に近いですね。

稲次 「リッシュ」のコンセプトを、もう少しきかせてください。

松本 「リッシュ」はフランス語で、英語のリッチですが、「心の豊かさ」の意味合いが強いのだそうです。コンセプトは先ほども少し言いましたが、リッシュな暮らしと「土に還る」。長く使える、捨てない、つまりサステナブルです。

アップパーは植物タンニン鞣しの牛革を使っています。レディスの加工底タイプの材料は生分解性のラバーです。

靴箱も収納箱として再利用できるようにデザインしています。靴の包み紙の代わりに奈良の蚊帳生地
の布を用いて、手入れ用のクロスとして使えます。

アップパーはまだ日本エコレザー基準（JES）の認定は受けていないのです。革は姫路のタンナー、三昌さんの牛革です。

稲次 三昌さんの革なら、日本エコレザーの認定はきくと取れます。

松本 本底も厳密に言つと「土に

還る」とまでは現状では言い切れない。理論的には土に還るものですが、まだ実証できていません。

稲次 それでしたら、生分解性プラスチック評価試験を受けたらいいですよ。日本産業規格やISOにも規定されています。

松本 アップパーはタンニン鞣しと思えないくらい柔らかく、中敷には植物タンニン鞣しの鹿革を使っています。価格は1万円後半です。販売は20年12月から始めたばかり。卸売では思いが伝わりにくいのでインターネット中心で販売していきます。

稲次 フワツと足を包み込む上質な革靴ですね。

エコレザーはなぜ「家畜動物」が条件なのか

稲次 ショールームにはサステナブルを意識した商品がたくさん並んでいますね。

松本 若い人たちと話し合つて、そつという方向で進んでいます。

稲次 そこまでやっていらつしゃるのなら、日本エコレザー基準認定革の使用にも取り組まれると、なお、良いかと思えます。

松本 検討しますが、よく分かっていないところがあるので、今日は勉強させていただきます。エコレザーの認定基準の一つに、食用となる「家畜動物の皮」となっています。当たり前なのですが、家畜動物の皮は、エコレザーですね。

稲次 まさしくそうです。皮革産業は食肉の副産物である皮を有効活用しています。この有効活用と
いうことがポイントです。

日本では国産の牛原皮が年に100万枚出てきます。しかし、いま皮革産業はそれだけの皮は使いきれないといけません。約半数は輸出しないといけません。ただ、いま輸出先が生産を落としているので、一部の原皮は廃棄せざるを得なくなっています。これでは、焼却や埋め立てなど環境に非常に負荷をかけてしまつので大変困っています。

松本 そんなに捨てているのですか。



「リッシュ」



「リッシュ」は靴箱、靴の布袋までサステナブル



「ヤマトイズム」のコーナー

稲次 そうなのです。ところで、肉牛1頭の重量はどのくらいだと思われませんか？

松本 馬は5000〜6000kgだから、牛は800kgくらいかな。

稲次 そういう数字がボンと出てくるのには驚きです。皆さんはふつう300kgくらいとおっしゃる。平均690kg、ざっと700kgです。そのうち、皮の重量は大体10%で、70kgもあります。これを捨てる、燃やすとなると大量のエネルギーを使い、二酸化炭素を排出します。環境に非常に負荷をかけてしまうのです。これでは、環境には優しくない。皮を有効活用している皮革産業は、環境負荷低減に大いに貢献しているのです。

松本 ですよ。日本皮革技術協会さんには、その辺りは声を大にして言ってもらいたいです。

稲次 このように、皮革は環境に非常に優しい素材なのです。にも関わらず、可愛い動物を殺して皮を採っていると騒いでいる人がいっぱいいるのです。

松本 肉を食べているのに…。

稲次 生きていくために、生活を豊かにするために肉や乳の恩恵を受けながら、平気でそんなことを言っています。

松本 動物愛護の観点から、革ではなく、合成皮革、人工皮革を使いましょうとか言っている。いわゆるアニマルフリー、エシカル(倫理的な)ですね。

どこまで考えて、こんな主張をするのか疑問に感じますね。いずれ廃棄すれば、土に還りにくいタイプのゴミになるんでしょう。

稲次 まさしく人工皮革や合成皮革は石油製品。環境に大変負荷をかけています。エコロジーというのは近年レジ袋削減で象徴されるようなプラスチックなどの廃棄物削減であり、環境の浄化であって、いわゆる「脱石油」なのですが…。

革の「健康診断」を行い、自信をもって提案する

稲次 そういうことで、環境負荷

低減に貢献している革製品、それも消費者にとっては安心・安全な革、日本エコレザーの認定を受けた革をできるだけ使ってほしい、と私どもは普及活動をしているわけなのです。

すると、エコレザー以外は危ない革なのかと言われます。ですが健康診断をしてなくて、「健康だ」と言われても誰もそれは信じられない。だから人間ドックに一度入り、つまり革の安全性の検査はやっておいたほうがいいと思うのです。

松本 日本エコレザー基準のパンフレットを見ると、カドミウム、水銀、鉛の数値にも触れていますね。こんなのは無くても革はつくれるのでしょつ。

稲次 はい、今日ではほとんど検出されなくなっていますが、時々、カドミウム、ニッケルは仕上げ剤の中に入っている場合があるので要注意です。

また、日本では考えられないことですが、水質の悪いところで鞣したりすると水銀が含まれていることがあるので検査項目に入れて



日本エコレザー、6つの条件



- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値を満たしている
- ⑤適切に管理された工場で作られた革
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上

※これまでの「日本エコレザー対談」は、www.japan-ecoleather.jpのトップページの「業界情報」の項でご覧いただけます。

います。ただ、いままで15年以上の期間にわたって、1000点以上の革の検査をしましたが、水銀は1件も検出されていないのですが。

特定芳香族アミンを生成するアゾ染料24種についても不使用宣言ではなくて、分析を行って検出されないことを証明しています。これによって高い信頼性を得ることが出来ます。

あとは必ず検査するのが染色摩擦堅ろう度(色落ちの度合い)、それから工場が製革排水を浄化しないで垂れ流しをしているとか、廃棄物を投棄しているような工場で作った革は日本エコレザーとは認められません。すべて適正に処理、管理されているという証明が必要となります。

ネット利用者は

エコロジーへの関心も高い

松本 クロム鞣し革では認定が取れないのですか？

稲次 いいえ、そんなことはないのです。クロム革でも基準値をクリアすれば日本エコレザーの認定

は十分取れます。これまでに沢山のフルクロム革が認定を取得しています。

松本 日本エコレザーは当社が認証を取ってなくても使っている革が日本エコレザーであれば、靴に表示していいのですか？

稲次 はい、大丈夫です。靴に使用されている革の認証に限られますが…。

松本 当社で取れば一番いいのですが、分析費用が馬鹿にならない。1色あたり10万円くらいかかると聞いています。靴1点で色が4色とすると、40万円です。これは、まあまあ負担ですね。

稲次 40万円もかかりませんよ。4色のうち、1色について全項目の検査を行い、認定が受けられれば、他の3色は色違い分析と言って、検査項目は半減します。その結果、4色で25万円くらいになります。メーカーが、タンナーに日本エコレザーの革を使ってみたいと、働きかけるのも一つの方法ですよ。

また、この試験料金については、現在、補助制度がありますので、これをつまぐ利用すればそんなに負担はかからないと思います。詳細は一般社団法人皮革産業連合会に相談されることをお勧めします。

松本 でもね、エコロジーを訴求するのは、何か後ろめたい感じもしているですよ。

人としての処し方を商売の道具にしているみたいで。

稲次 世の中には、エコロジーや環境に優しい商品に対して非常に関心を持つる人は結構いるのです。ですから例えば、日本エコレザーを使っていることを前面にはなく、さりげなく表示しておいて、消費者にこの付加価値を見つけてもらうのがいいのではないのでしょうか。

当然、環境に優しく、消費者にとって安心・安全な革であることは訴求するべきだと思います。

松本 日本的な奥ゆかしさで。良いことをしているわけだしね、少しスッキリしました。